

チョコレートの季節です
hascrossの薬膳菓子は
今年もより健康的に、より美味しくを追求します

営業時間 毎週木、金、土の12~18時、時間外も遠慮なくご相談ください。

従業員は コロナワクチン4回以上接種済み マスク着用の他、体温測定、酸素飽和度随時測定

室内環境 空気清浄機使用、常時換気空調、HACCP衛生管理



ベリーのチョコレートケーキ

手作りノンシュガーのお菓子（店頭販売と宅配）ご発送いたします

新作「ベリーのチョコレートケーキ」オーガニックストロベリー、オーガニックゴジベリー（クコの実）、自家農園産ブラックベリーの3種のベリーを使ったチョコレートケーキをご用意しました。甘味はキシリトール、ラカンカ、イヌリン、ハチミツの組み合わせ。ブラックベリーとオオバコパウダーで作ったジェルがアクセントのしっとりともちもちのケーキです。ホエイプロテインも加えた体を気遣うチョコレートケーキ、バレンタインデーにもお奨めです。

飲食（店内利用と一部お持ち帰りに対応、Uber Eats・出前館に出店）

自家農園野菜優先のランチ：セロリのポタージュスープ始めました。

薬膳パン、季節のスープ、薬膳カレー3種類はお持ち帰りもできます。

オンライン検討会:人体から切離された臓器・組織・細胞が直面する問題の解決に向けて

引き続きZoom録画視聴のご希望を受け付けております

お申し込みは店頭、またはhascrossのホームページ「お問い合わせ」サイトから

録画視聴登録：無料の市民登録枠と、有志登録枠(視聴料1万円)があります。

個別健康相談案内: ご希望の健康・栄養関連科学情報の提供に応じます

初回無料 ご希望により調査報告書(有料)をご提供します。

実績があがっています。おかげさまで嬉しいお声をいただいています。



薬膳菓子・美健菓子 ※店頭価格を記載

hascrossのスイーツはすべてノンシュガー

米ぬか由来のイノシトールと天然甘味料使用

○ベリーのチョコレートケーキ 1,800円/ ½本
3,500円/ 1本

3種のベリー(農薬不使用自家農園産ブラックベリー、オーガニックのストロベリーとゴジベリー)を使ったチョコレートケーキです。ブラックベリーにはアントシアニンが、ゴジベリーにはゼアキサンチンが多く含まれ、目の疲れにお奨め。甘味はキシリトール、イヌリン、ラカンカ、ハチミツの組み合わせ。ホエイプロテインとアーモンドパウダーで栄養バランスにも配慮。ブラックベリー果汁とオオバコパウダーで作ったジェルのもちもち感と甘さ控えめのしっとりケーキをお楽しみください。※小麦、米粉不使用

○薬膳チョコレート 1,400円/6ピース(以下2種×3p)

・クコの実、龍眼肉、煎りはと麦、シナモン、クルミ、アーモンドが入ったハイカカオのチョコレート

・自家農園産柚子ジャムを閉じ込めたチョコレート

○チョコレートガナッシュケーキ 1,500円/ ½本

○無花果のワインケーキ 3,200円/ 1本

○チョコレートの詰合せ 2,000円

・ベリーのチョコレートケーキ
2ピース

・薬膳チョコレート
2種類×2ピース=4ピース



※バレンタインデーのご予約は
お早め
詰合せの内容は変更できます

ランチ・カフェ

薬膳パンと季節のスープセット 1,400円

セロリのポタージュをご用意しました。鋸南町自家農園のお隣の農家、石井さんのセロリです。自家農園産カボチャのスープは残りわずかです。

農園便り はや春の兆し

南房総は北風が鋸山に遮られて、霜が降りたりする冬らしい冬日はほんの数えるほどしかありません。特に近年は12月に入れば農家さんは特産の菜花の摘み取りや出荷などで忙しい時期に入ります。鋸南町の私どもの菜園では大根、キャベツなどの冬野菜が静かにナイロンネットの中で息づき、路地ではネギ類に、そして法面は水仙に占領されます(写真)。竈に仕込んでから作業を始めて、一息いれるときにとりだす焼き芋のなんと美味しいこと。冬はベストシーズンです。



住所 〒232-0071 横浜市南区永田北 1-3-3-1

電話 070-4414-7834 <https://hascross.yokohama>

京急井土ヶ谷駅より 徒歩10分または

横浜市営バス79番199番、神奈中バス11番バス 5分

北永田バス停下車至近

保土ヶ谷駅東口より(途中坂あり徒歩15分)

横浜市営バス212番 バス5分 北永田バス停下車

Ref to URL for English Information



ショートエッセイ

少子化問題、その解決策はどこに？

新年にあたり岸田首相は「異次元の少子化対策」と名打って金をつぎ込むぞ、だから少子化を食い止める策を出せ、と大臣に指示した。ご承知のとおり、これまでも少子化を食い止めるために、生殖医療の拡充、出産から子育てを助ける経済支援と環境整備など様々な努力がなされてきた。しかし減少の一途だ。

妊娠・出産の適齢期は20歳台(広くみてもまあ30歳代前半ぐらいまで)、ということは疫学的研究からの一般常識だ。受胎率、自然出産率、胎児の周産期死亡率、妊産婦死亡率、胎児・新生児の染色体異常のリスクと母体の年齢との関係研究からの結論だ。勿論、40歳すぎても健康な赤ちゃんをさずかる幸運な例は少なくない。医療技術が進んできている今、35歳すぎたらやめたほうがいい、ということではない。しかし日本女性の平均初産年齢は2011年以来30歳以上が続いていることは厳然たる事実だ。つまり適齢期での妊娠・出産を阻んでいるなにかがあることは明らかだ。とすれば、子供が生まれたら金を付ける、子育て環境を整備する、ということで問題が解決するのか。子供を育てようと思う頃にはとうに適齢期を過ぎてしまっているところで金をつぎ込むだけでいいのか? 適齢期に受胎・出産を許さない敵はいったい何者なのか。その本性を見抜けなくてこの戦いに勝てるのか?

そんな疑問を思うなかで、解決が迫られている。首相は大臣に考えろといっているのであり、私自身、大臣からよい解決策が生まれることを期待している。しかし大臣は市民が選挙で選んだ議員なのだから、解決策が失敗してもその責任を大臣のせいにするとはできないだろう。それが民主主義だとすれば、市民の1人としても考える責任があるのではないか、その気持ちで以下に愚考を吐露する。ご参考となれば幸いです。

いまだき、20代の若者は男女ともに多忙を極めている。次世代をはぐくむ適齢期などと考える前に、なんとか自分の求める自分になるために、すべての時間と能力をつぎ込み。自分も回りも考え方は一致している。そこで、高学歴の専門職を目指す。スポーツや芸能に全力投球する。また会社の社員となれば、将来の幹部となるために社員教育に集中する。成功には国をあげての喝采が送られるのだ。

ところで、子育てというのは自分以外の存在を認め、育成するということだ。ある程度自分の犠牲はやむを得ない。そういった気持ちでないとできないことだ。それが次世代をになう大切な生命であるとしても、いまを生きようとしている自分と競合する生命でもあるのだ。

それでは、意志もまた能力も発揮できない弱小な次世代の立場に立つ味方は誰だ。いままでの考えではそれは親だということになる。しかしいまや親はそんな次世代の命と競合する存在になってしまっているのではなからうか。あるいは競合が起きないように、余裕ができるまでは出産を抑えようと考えている者が多いということなのではないのか。

それでどうする? 私が思ったのは、子供、あるいはさらに出産にいたる以前の胎児の段階からも、その生命の成長しようとする意志を助ける力を与えて、その力で敵と渡り合え、成長できる環境を作る、ということだ。

どんな力を与えるのだ。いくつか考えられるが第1選択は選挙権だ。妊娠したどこかの段階で、胎児に選挙権があると決めるのだ。誰が決める? 国会で議員が法律を作って決めるのだ。どうやって胎児が投票するのだ? その法律が決めた責任ある代理人が投票するのだ。多くの場合は親であってよいかもしれない。でも親がいなくとも、あるいは親が適任でない場合にも適当な代理人が選べるように法律で決めておけばよいのだ。

命が生まれ、成長する権利を求める票田ができれば議員は動く。本当に子供のためのさまざまな仕組みが作られていく。法律をつくるためにさしたるお金は無用だ。これできっと子供は育つ。子供は増える。そんな考えはどうだろう。 松村外志張